


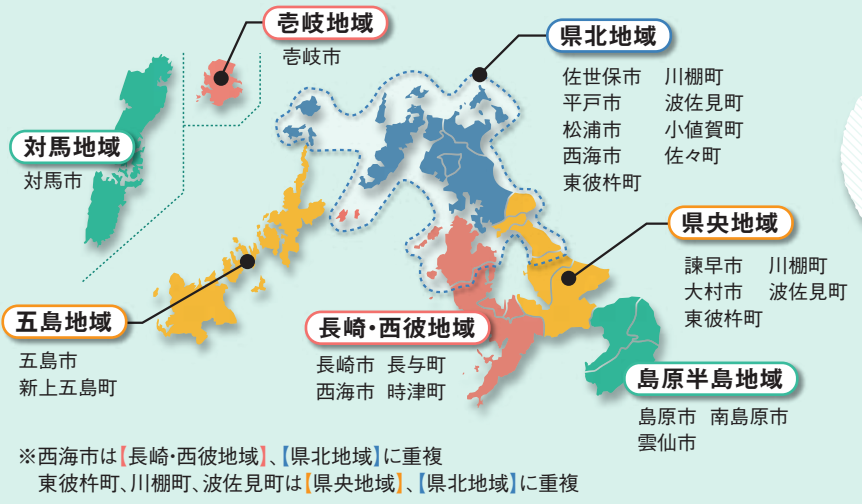
Challenge 2020

# 長崎県総合計画 チャレンジ2020

～地域別計画編～

県では、長崎県が将来にわたって持続的に発展していくために、これから5年間の県政運営の指針や考え方を示した「長崎県総合計画 チャレンジ2020」を策定しました。今回は、この中から「地域別計画」を特集します！

「地域別計画」とは、県内各地域の地域資源や特性を活かした個性的な地域づくりを進めるための指針ばい。

県央地域

めざす姿

新幹線開通でさらなる広域交通拠点として人やモノが行き交い、製造業、農業などの多様な産業が力強く発展し、豊かな自然や景観と調和したにぎわいあふれる地域



数値目標

観光客延べ数  
541.7万人 → **595.8万人**  
(H26) (H32)

製造業従業者一人当たり付加価値額  
1,243万円 → **1,305万円**  
(H24) (H32)

新規自営就農者数  
25人 → **48人/年**  
(H22-H26平均) 240人 (H28-H32累計)

地域づくりの方向性

- 九州新幹線西九州ルート(長崎ルート)の開業に向けた県央の新しいまちづくり**  
新幹線駅周辺のまちづくり、交通結節機能の強化、島原半島との連携強化、新幹線車両基地の活用 など  
※人や物の輸送において複数の交通手段の接続が行われること
- 県央の強みを活かした力強い産業づくり**  
工業団地の整備、農業の就農支援や生産基盤の整備、有明海・大村湾の再生 など
- 県央の特性を活かした住みやすく、にぎわいあふれる地域づくり**  
スポーツツーリズムの推進、諫早湾干陸地などの利活用、大村湾を活用した交流拡大、長崎空港の24時間化 など



島原半島地域

めざす姿

長崎県の農業先進地として、収益性が高く、担い手が育ち集まる農業地域を目指すとともに、世界遺産やジオパーク、国立公園「雲仙」を活用した「健康」「温泉」リゾートとして人を呼び込める地域



数値目標

農業所得1,000万円確保が可能となる規模に達した経営体数  
136経営体 → **240経営体**  
(H26) (H32)

延べ宿泊者数  
102.8万人 → **113.1万人**  
(H26) (H32)

新規自営就農者数  
67人 → **84人/年**  
(H22-H26平均) 420人 (H28-H32累計)

外国人延べ宿泊者数  
2万人 → **4万人**  
(H26) (H32)

地域づくりの方向性

- 島原半島一体となった力強い産業づくり**  
畑作露地野菜の作付拡大、農業・水産業後継者の確保、そうめんなど特産品のブランド確立と販路拡大 など
- 隣県熊本とも連携したにぎわいあふれる島原半島づくり**  
ジオパーク、世界遺産などを活かしたトレッキングコース造成など体験型観光の推進 など
- 島原半島の地域特性を活かす交通ネットワークづくり**  
島原道路等の整備、港湾の機能強化 など
- 火山などの自然と共生し、安心して暮らせるまちづくり**  
自然災害に対する防災・減災への取組、噴火災害の伝承 など



長崎・西彼地域

めざす姿

新幹線開業や世界遺産登録の効果を最大限発揮したまちづくりによる国内外との交流拡大と産業のさらなる発展を図るとともに、平和を発信し、個性豊かな歴史、文化を活かした魅力あふれる地域



数値目標

観光消費額  
1,060億円 → **1,228億円**  
(H26) (H32)

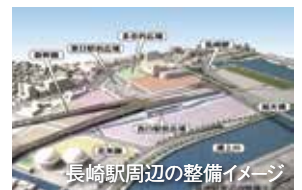
製造業従業者一人当たり付加価値額※  
1,592万円 → **1,672万円**  
(H24) (H32)



第1次産業新規就業者数  
43人 → **62人/年**  
(H26) 310人 (H28-H32累計)

地域づくりの方向性

- 九州新幹線西九州ルート(長崎ルート)の開業に向けた都市機能の充実**  
JR長崎本線連続立体交差化、長崎駅周辺等の整備、新大工町などの再開発、県庁舎跡地の整備、西彼杵道路等の整備 など
- 長崎・西彼地域の個性を活かした観光・交流拠点としての魅力の創造**  
長崎港の機能強化、外国人観光客の利便性向上、世界遺産の活用、夜景景観づくりの推進、グリーンツーリズムの推進 など
- 造船業や水産業など基幹産業のさらなる発展と新規産業への展開**  
客船、液化天然ガス運搬船など高付加価値船等の建造促進、海洋関連産業の拠点づくり、水産物の販路拡大、果樹生産地の振興 など



※付加価値額…企業の利益に人件費などのコストを足したもので、経営向上の程度を示す指標となる。